



林 美津子さん

思い出とともに

「おはようー若葉が美しいよ。」「今日も一日見守ってくれてありがとう。また、明日ね。」と朝夕、つい語りかけている。実家からは歩いて10分足らずの所に住む私達は、実家の仏前で手を合わせるの

が日課となっている。かれこれ20年になる。きょうだいは時々、また、子や孫達は帰省時にお参りしてくれる。これからも亡き両親を「想う心」を大切に守り続けていきたいと思う。昔は、地域の方たちが、「おんね？」と言ってよく立ち寄ってくれていた。母一人の時は、とても心強く有難かった。人間関係が希薄になりつつある昨今ですが、あの頃は声をかけ合い、助け合い、本当に温かいつながりがあった。

小さい頃、我が家の庭が少し広がったので、子どもたちの集まり場所だった。ビー玉、ペチャ、缶けり、ゴムとび、お手玉。稲刈り後の田んぼでドッチボール。山へわらびとり。川へしじみ取り。フーフーが流行した時、「おいが作ってやるけん。」と男の子が竹で立派に作ってくれた。みんな仲良く、小さい子にも優しく「思いやり」があった。よく遊んだが、みんな家の手伝いもよくした。この年になると「あの仲間たち」が本当に懐かしい。

詠唱を続けている。先輩に誘われたことがきっかけだった。初めは戸惑うことばかりだったが、先輩たちのおかげで、何とか。今まで続けている。みなさんとお知り合いになり、話をするのも楽しみだ。大会の時は、一致団結してがんばっている。普段も家で彼岸、お盆などの時唱えるようにしている。

また、源昌寺様の企画で、多くのお寺を参拝出来た。「総本山知恩院」、「大本山増上寺」、「鎌倉光明寺」、「鎌倉大仏高徳院」、「長野の善光寺」、「日光山輪王寺」、「岡山の誕生寺（法然上人誕生の寺院）」、「北海道の新善光寺」、「松江の月照寺」



源昌寺通信

木漏れ日

第6号

発行元：浄土宗 源昌寺
令和7年7月発行



一食の間に三度はかり

思い出ださんは

よき相続にてあるべし

知っておきたい 仏事の基礎知識 ～お盆の由来～

など。一般の人が入場できないところでも特別に入場させてもらった。お経や詠唱を唱え、お寺への参拝を通じて法然上人の生き方、教えを多く学んだ。これからは、教えを基に、心豊かに生きていこうと思う。

日常の仏教語

不思議 ふしぎ

私たちの身の回りには、言葉では説明しきれない「不思議」がたくさんあります。この「不思議」という言葉。元々は仏教語の「不可思議」の略語とされています。本来は「思議する（考える）」ことが不可能なこと、すなわち人智を超えた仏さまの智慧を指していました。が、やがて「原因が分からず、考えさせられること」という使い方に変化をしていきました。そこには、不思議を前にしても何とか合理的に理解しようとする人間の姿勢が感じられますね。

源昌寺ホームページ

源昌寺では、平成25年よりホームページを作成しています。こちらもぜひご覧ください。



住職コラム

「和尚さん、仏壇を新調してきれいにしたいのですが、どうしたらいいですか」こんな相談内容でした。暮じまいや仏壇じまいなどがまるで流行語のように飛び交う現代で、古くなった仏壇を新調して母が元気な時に、仏壇を綺麗にしたい。そんな熱い思いからのご相談でした。「それはとてもいい試みですね」そうお話をさせてもらったのと同時に、うちの檀家さんにこんなに素晴らしい思いを抱いておられるご家庭があることに安堵しました。仏壇の開眼式（魂ぬき）を行い、新しく購入されたお仏壇に開眼式（魂入れ）を行わせていただきました。ちょうど新調された時期と年忌法要が重なったということもあり、お仏壇が新調されてから年忌法要を勤められました。お仏壇を新調されてからご家庭の中が、またご家族の心が明るく見えたのは気のせいでしょうか。さわやかな春風が吹く時期に真新しいお仏壇にいつも手を合わせる。そんな毎日の中であの明るさになられたのであろう。そう思わずにはいられません。話になった「断捨離」が横行する現代。お世話がなくなった「ご縁」まで断捨離してしまう人が増えているのも事実です。確かに要らなくなったものを片づけ捨てることは、ある意味すっきりとしますが、世の中には「捨ててはならない想い」「大切に守り抜いていくもの」が存在するように思います。守っていくことは時に辛いこともあります。先代々守って来られた「想い」までを断捨離してはいけません。そう思う今日この頃です。

7月から8月にかけては、お盆の時期です。お彼岸とともに、親しみ深い仏教行事ですね。毎年、お盆の時期になると二ユーなどで帰省の話題が取り上げられるように、普段は離れて暮らす家族や親族が集まる良い機会にもなっています。

「お盆」の起源は『孟蘭盆経』という經典に記されており。お釈迦さまの弟子目連尊者と、餓鬼の世界に堕ちた目連尊者の母親の逸話に遡ります。お釈迦さまは、母親を救う方法を求める目連尊者に「僧たちが夏の修行を終える7月15日に彼らに食べ物や飲み物などを献じれば、その功德によって汝の母を救うことができよう」と説かれました。これが日本の先祖供養信仰と結びつき、地域により7月または8月に先祖供養の行事として行われるようになりました。

お盆には、今は亡き先祖さまを極楽浄土から自宅にお迎えし、ねんごろにご供養をしますが、それは、父、母をはじめ、多くの方々の「いのちのつながり」があったからこそ私たちの「いのち」があるということに感謝の気持ちを伝えるためです。このことに今一度思いをいたし、ご先祖さまへの「敬いの心」を次の世代につないでいくこともお盆の大切な意味といえるでしょう。

